

K-355

早坂台遺跡

昭和56年度発掘調査報告書

昭和57年3月

立川町教育委員会

はや さか だい
早坂台遺跡

昭和 56 年度発掘調査報告書

昭和 57 年 3 月

立川町教育委員会

序

総合開発の構想が示され、具体的に展開されてから暫らく経過した。この間に開発と自然保護、開発と遺跡保存等、人間の進歩のためぜひ両立させなければならない考え方いろいろと論議されてきている。事実最近は地方の時代というキャッチフレーズで、私達の生活の近いところで問題になってきている。

上山春平氏（京大教授）は、「深層文化論序説」なる本の中でつぎのように述べている。即ち地殻的規模における人類社会の発展段階を三つにわけて自然社会、農業社会、工業社会とし、自然社会を遠景、農業社会を中景、工業社会を近景として人間の意識の歴史的变化をとらえ、個人的には遠景に相当する意識が深層に位置し、中景に相当する意識を中層、近景に対応する意識を表層として意識の重層構造を述べている。私たちはこのような歴史性、このような歴史的意識の中で生活しているといえるのである。

開発と同時に、早坂台遺跡が2ヶ年にわたって発掘され、私たちの祖先のすぐれた生活・文化の所産を今に求めたことは、大事な営みであったといえる。しかも、その出土品の多彩で数の多いことも特筆されてよいし、当初予想された大木6式より更に古い大木5式に位置づけられたことも早坂台遺跡の重要性を価値づけるものだといつても過言ではない。フランスの有名な文化人類学者、レバー・ストロースは文化の構造主義を提唱する点で卓越した考え方を我々に示している。要約すれば、たとえば縄文の昔の人々の考えることや、その所産としての文化と、今の私達の考えることや文化との間には、程度の差はあっても構造的には差はないとする考え方である。私達が人間でない生物であったら、認知できるかも知れない世界も、人間である以上知ることも触れることも不可能な世界がある。われわれが考へている論理は、その脳構造の枠内のものといえるからである。

早坂台の遺跡発掘を通してあらためて「温故知新」の意味を問いかえてみたい。また「進歩」の意味も問われるのかも知れません。

国・県の援助とご指導に加え、地元松の木部落のみなさん、島海砂利株式会社、株式会社斎藤組、小林建設株式会社等皆様のご協力に心から感謝申し上げます。

最後にこのような地味な発掘の推進の責任者として、日夜をわかつたず献身的に努力され発掘から整理まで整然と完遂された八木藤太先生のご尽力に深く感謝を申し上げて序にかけます。

昭和57年3月

立川町教育委員会

教育長 鈴木 千代松

例　　言

1. 本書は立川町教育委員会が昭和56年度に実施した、土砂採取に係かる、早坂台遺跡(遺跡番号1692、山形県東田川郡立川町大字肝臍字早坂80)の55年度に続く第2次緊急発掘調査報告書である。

2. 発掘調査は、昭和56年5月11日より同年7月31日まで行なった。

3. 調査に当っては、鳥海紗利KK、KK斎藤組、小林建設、松の木部落の協力を得た。なお、山形県教育文化課、庄内教育事務所埋蔵文化財分室からは調査・報告書刊行にいたるまで種々御指導をいただいた。

4. 調査体制は下記の通りである。

調査主体 山形県東田川郡立川町教育委員会

指導委員会 酒井忠一 佐藤祐宏

調査員 八木藤太(立川町社会教育委員)

事務局員 今田幸雄(立川町社会教育課係長)

阿部金彦(同 主事)

菅原昭治(同 主事)

石川精一(立川町立谷沢公民館主事)

作業員 長南長作、小林忠助、相馬藤雄、近藤政昭、斎藤 智、小林みえ
小林ふじ江、小林さだ子、小林あさ子

5. 本書の作成は、八木藤太が当った。なお、奏 昭繁氏からは第10・11図の石器実測図作製の労をいただき感謝申し上げます。

6. 本文挿図中の記号は、ST—住居跡、SK—土壙、EP—柱穴、EL—炉跡、SX—性格不明遺構である。又、上層・下層とあるのは、第1文化層のある第3層以上を上層、第4層以下を下層と表現したものである。

目　　次

I 遺跡の概要	III 遺構・遺物
1 位置と環境	1 遺構と遺物の概要
2 遺跡の層序	2 遺構
II 調査の経緯	3 遺物
1 調査に至る経過	IV まとめ
2 調査の概要	7

挿　　図　　目　　次

第1図 遺跡位置図	2
第2図 土壙図	3
第3図 グリッド配置図	5
第4図 遺物出土分布図	9
第5図 ST16, 17住居跡	11
第6図 ST15, 18住居跡	13
第7図 上層実測図	15
第8図 上層遺構配置図	17
第9図 下層遺構配置図	19
第10図 石器実測図	25
第11図 石器実測図	27
第12図 石器実測図	28

図　　版

図版1 早坂台遺跡周辺航空写真	図版20 隆文土器
図版2 遺跡遺景、発掘地区設定、上層	図版21 横文土器
図版3 調査状況、遺物出土状況、土器出土状況	図版22 土器底部片、無文土器
図版4 遺物出土状況	図版23 接突文土器、沈綫文土器
図版5 遺物出土状況	図版24 刺突文土器
図版6 石棹、石斧出土状況	図版25 隆帯文土器
図版7 上層住居跡	図版26 横文土器
図版8 上層住居跡	図版27 摂糸文土器
図版9 上層住居跡、下層住居跡	図版28 石鍬、石鎌、石器
図版10 下層住居跡	図版29 石鉈、石槍
図版11 下層住居跡	図版30 石槍
図版12 下層住居跡	図版31 石槍
図版13 土壙下層住居跡	図版32 石槍
図版14 出土土器	図版33 打製石斧
図版15 無文土器、沈綫文土器	図版34 磨製石斧
図版16 沈綫文土器	図版35 磨石、凹石
図版17 沈綫文、隆帯文土器	図版36 石球、棒状砾、石棒
図版18 隆帯文土器	図版37 椎状砾、砾石、その他
図版19 隆帯文土器	